

2021 年度 専門学科・総合学科推薦入試 小論文
【経済学部】

受 験 番 号	氏 名
-	

日本で少子化が認識されるようになったのは、1990年である。しかし、日本で少子化対策基本方針が示されたのは1999年であり、問題の認識から対策までに、約10年の遅れがある。その後、様々な少子化対策が講じられてきたが、いまだに成功していない。その原因の1つとして、日本では、少子化対策が成功したヨーロッパの国々をモデルに、政策が立てられてことが挙げられている。

ヨーロッパの国々と日本では、結婚や子育てに関する考え方に大きな相違があるため、欧米モデルは、そのまま日本には適用できないという見方がある。山田昌弘¹は、調査によって、むしろ、日本の若者の経済格差が拡大していることが真の原因ではないかと指摘する。

若者の経済格差の拡大と、少子化は、どのような関係があるだろうか。あなたの考えを、600字以内で、論理的に述べなさい。

¹ 山田昌弘 (2020) 『日本の少子化対策は、なぜ失敗したのか?』 光文社新書